

令和7年度 安全管理推進大会 を各地区で開催！

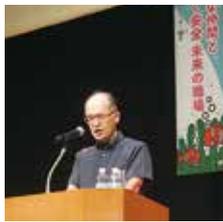
〈スローガン〉 **「多様な仲間と 築く安全 未来の職場」**

令和7年度全国安全週間の準備期間である6月に、沖縄県労働基準協会の各支部と関係労働災害防止団体等の共催、各労働基準監督署の後援により、各地区において安全管理推進大会が開催されました。

那覇地区

6月5日(木)にアイム・ユニバースてだこホール(小ホール)にて令和7年度那覇地区安全管理推進大会を開催し、97事業所168名が参加しました。

参加者全員で黙祷を捧げたあと、大会あいさつした仲西聡労働基準協会那覇支部長からは、「昨年の労働災害による死亡者数が2年連続増加となり、県内における休業4日以上死傷者数も過去最多となった深刻な状況を重く受け止め、それぞれの事業場において、企業の実態にあった安全衛生計画を策定し、重点対策の各事項に継続的に取り組む必要がある。」と呼びかけがありました。



小池雅弘那覇労働基準監督署長からは、「沖縄県内における令和6年の労働災害発生状況の特徴としては、『①重篤な被害につながりやすい墜落・転落による災害が依然として多発している、②転倒による災害が増加し全体の28.5%を占めている、③50歳以上の災害が増加して全体の半分以上(56.2%)を占めている』ことです。那覇監督署管内においても、死傷者数は増加傾向が続いており、死亡者数は令和6年は『ゼロ』でしたが、今年3月にオーダーピックアップトラックフォークリフトのパレットの上で荷を取り扱っていた作業員が墜落し、死亡に至る災害が発生しました。近年、技術の発展や情報化等により、職場環境や働く者の意識が変化しております。安全管理も変化に沿った効果的な対応が求められており、災害防止対策については、直ぐに効果が出るのではなく、日々の積み重ねが大切です。」旨の来賓あいさつがありました。

佐喜真那覇監督署安全衛生課長からは、全国安全週間に向けての取り組みや法改正により義務化された熱中症対策の具体的な内容について説明がありました。



特別講演では、沖縄産業保健総合支援センターの産業保健相談員で産業医である 平山良克氏より「企業における熱中症の予防と安全管理」と題し、熱中症のメカニズムや熱中症の分類と緊急対応、熱中症予防の基本対策などについての説明がありました。

港災防沖縄総支部の安全指導員運天祐樹氏を中心に参加者全員で指差唱和が行われ、参加者は安全週間スローガンに向かい労働災害ゼロへの決意を新たにしました。また、大会宣言は、林災防沖縄支部豊川事務局長より読み上げられ、参加者全員が労働災害のない安全で快適な職場づくりを目指すことを宣言し安全意識を高めました。



中部地区

6月4日(水)、沖縄市産業交流センターにて令和7年度中部地区安全管理推進大会を開催し、92事業所164名が参加しました。

参加者全員で黙とうを捧げたあと、共催者を代表して手登根明労働基準協会中部支部副支部長のあいさつで開会し、手登根副支部長からは、「大会を機にそれぞれの職場で労働災害防止活動の重要性についての認識を深め、積極的な労働災害防止活動を展開し、誰もが安心して働くことができる職場環境を築けるよう取り組んでまいりましょう」との呼びかけがありました。



南隆功沖縄労働基準監督署長からは、「沖縄署管内の昨年の死亡者数は、感電と交通事故の2人で前年比3人減となり、また、死傷者数は507人で前年比25人増となりました。中部地区において『死亡災害を発生させない』、『死傷者数を昨年より減少させる』ため、当署としては、転倒、腰痛、墜落、機械による災害防止を中心に取り組みを行ってまいります。近年、働き方改革、女性の活躍推進等により、性別、年齢、国籍問わず、多くの職場で、多様な人材が働いています。日ごろの安全管理等を再確認して頂き、多様な仲間(労働者)と共に安全な職場を築き、『無事故、無災害』が達成できますよう祈念いたします。」旨

